

向昭彦



むかい昭彦の道政報告

発行:むかい昭彦道政事務所 TEL011-299-2361 FAX011-299-2971
〒001-0028 札幌市北区北28条西4丁目2番12号YMノース28 1F



3月27日午後6時半から、センチュリーロイヤルホテルで「食育」をテーマにセミナーを開催しました。講師には、私が大学を卒業後に学んだ服部栄養専門学校校長の服部幸應先生(写真)をお招きしました。

「食育」とは「人を良く育てる」とする服部先生の講演に、出席した皆様から「良かった!」と好評を頂きました。思いがけない「憲法論」に気分を害した方もいらつしやつたようですが、想定外のこととお許しを頂きたいと思えます。

年度末の忙しい時期に5000円を払って頂いて、ご来場頂いた皆様から御礼申し上げます。

道議会の第一回定例会が重なり、直前のお願ひにもかかわらず、快くお引き受けを頂いた企業や組合の皆さん、本当にありがとうございます。ございました。これからも精一杯努力して参りますので、御支



援頂きますようお願い申し上げます。

さて、新年第1回の定例道議会は2月21日に開会し、25年度予算案を中心に審議して3月22日に閉会しました。

北海道は地方債残高が5・9兆円に上り、

大きな赤字を抱えています。財政再建が進まない一方、課題とされる経済活性化や雇用確保、地域振興も一向に効果が上がっていません。

民主党・道民連合は財政運営や地域医療、TPP、経営悪化が続く北海道エアシステムの再建などについて質疑を重ねましたが、知事からは具体的な対応が示されず、25年度一般会計予算案に組み替え動議を提出して反対しました。

私は予算特別委員会において「社会福祉施設の防災対策の充実」や「待機児童解消のため、保育士の処遇改善と人材確保」をはじめ、5項目について道の考えを質問しました。内容については2、3面をご覧ください。

◇平成25年第1回北海道議会・予算特別委員会の報告(2~3面)

◇むかい昭彦の主張(3面)

◇写真で見る活動報告/エッセー「親父」(4面)

平成25年第1回北海道議会(2月21日～3月22日) 予算特別委員会における向井昭彦の質問と道の答弁

平成25年第1回北海道議会は、25年度道予算、生物の多様性の保全に関する条例、「TPP交渉に関する決議」、「地方交付税及び地方公務員給与に関する意見書」などを可決しました。向井昭彦は3月14、15日に開かれた予算特別委員会で「社会福祉施設の防災対策」や「待機児童の解消」など、道民生活の向上につながる大切な課題について主張を提案し、道の方針を質問しました。

はじめ、各々の社会福祉法人・団体が災害時に備え、障害者や高齢者の避難のための協定を結ぶことが重要であり、道が主体的に仲介役を果たすべきです。道の考えを問いました。

道の回答

施設利用者の安全確保のため広域避難も視野に入れ、他振興局と調整し、協定締結に向け取り組む。

道の回答

近隣農家から借りるなどマニュアルを作る」としていますが、このような対応で緊急時に対処できるのか、どうかについて質問しました。

道の回答

調査を受けて、緊急時の対処方法や関係施設の連携など具体的な対応策を取りまとめ、周知した。今後は国に対し、社会福祉施設が自家発電装置を設置する助成制度を設けるように働きかけ、施設には停電などに備えた実地指導などを通じて、指導・助言に努めていく。

(1-1)社会福祉施設の防災対策～災害時の防災協定

泊原発の域内、周辺、域外を

(1-2)社会福祉施設の防災対策～停電時の対応

昨年11月の西胆振での大規模停電を機に、道は社会福祉施設の停電等の備えについて調査したところ、72.9%の施設で非常電源がありませんでした。その対応として「発電機を持つている

(1-3)社会福祉施設の防災対策～要援護者の避難

厳寒期、自力で歩けない高齢者や障害者など要援護者の避難対策は大きな課題ですが、要援助者の名簿作りは道内では36%の市町村でしか整備されていません(全国ワースト2)。冬場の避難や

借金5.9兆円

民主党・道民連合 25年度予算案に 反対

北海道は大変大きな赤字を抱えています。道は毎年度、従来からの縦割り式で各部ごとに事業予算を一律にカットするやり方で

とに伴い北海道債の残高見込が5兆9100億円と、23年度末より1300億円も増える一方、国からの一方的な公務員人件費削減分の引き下げにより地方交付税が減り、新年度予算案は過去最大の実質140億円の赤字編成となつています。

各部を越えて各事業をひとつひとつ見直し、大幅にカットする物はカットする一方、必要な物には予算を増やすといった「選択と集中」が必要です。

そうしたことから民主党・道民連合は平成25年第1回北海道議会において25年度予算案(一般・特別会計合計3兆2744億円)に対し、組み替え動議を提出し、反対しました。しかし、反対少数のため原案通り可決されました。

「緊縮財政」の目標数値を掲げますが、一向に赤字が減りません。25年度は安倍政権下で公共事業が大幅に増加したこ

援助のわずかな遅れが惨事につながる北海道でこそ積極的な対応が必要であり、道として市町村を支援することを提案しました。

道の回答

道は、東日本大震災などを

踏まえ、平成23年8月に「災害時要援護者支援対策の手引き」を作成し、名簿作成や情報共有について検討会を昨年10月から設置して避難支援について検討している。今後は、向井議員ご指摘の神戸市の先進事例を紹介し、支援の充実に図りたい。



むかい昭彦の主張

- (1) 社会福祉施設の防災対策の充実
- (2) 災害時における要援護者の避難に支援施設・社会福祉法人間の連携強化
- (3) 待機児童解消のため、保育士の処遇改善と人材確保
- (4) 北海道新幹線・新函館(仮称)開業に向けスピード感のある情報発信と気運醸成
- (5) 道特別職の退職手当をさらに削減
(平成25年第1回北海道議会・予算委員会にて)

(2-1) 防災対策～泊原発 周辺の福祉施設の安全避難

泊原発周辺(30km圏)の福祉施設利用者が安全に避難できるように、圏外の社会福祉法人との連携を道が仲介することを提案し、圏内の町村の防災対策計画の策定状況について質問しました。

道の回答

昨年 全道の社会福祉施設に受け入れに関する調査を行い、圏内外の連携を進めている。各町村の防災対策計画については概ね3月中には作成されており、計画の監視・修正も含め、これから一層道民の安全・安心確保に取り組む。

(2-2) 防災対策～津波対策

道内市町村の沿岸部に関する新防災計画の進捗状況を質問しました。

道の回答

3月中には概ね津波ハザードマップは完了する見込み。現在、津波避難計画の検討も含め、地震・津波災害対策地方本部を中心に一層津波対策に万全を期す。

(3) 待機児童の解消について

待機児童の解消のためには①保育士の正規雇用化など処遇改善、②認可外保育施設の保育士資格取得の促進、③保育士確保のための就学資金貸

付制度の充実(3月入学申請時点で入学予定者が利用を判断できるよう制度を見直す等)が必要と主張し、道としてはどのように取り組んでいくのか、質問しました。

道の回答

質の高い保育を実施するためには、保育士が安定した雇用形態の下で保育に専念できることが重要。保育士の処遇を改善するために国は費用を私立保育所に交付する事業を設けた。道は費用として「安心子ども基金」に予算を積み増した。また、保育所の緊急的な整備を市町村に働きかけ、認可外保育施設に勤務している保育従事者が保育士の資格を取得するための事業活用を検討するなど積極的に取り組んでいく。保育士修学資金貸付制度は、向井議員の指摘の通り制度の活用努める。

(4) 北海道新幹線について

北海道と東北を結ぶ新幹線開通を3年後に控え、①駅名決定、②新幹線駅の周辺整備、③札幌開通を視野にいれた途中の各停車駅の観光客確保の取

り組みなど、スピード感を持って早期に取り組む必要性を訴え、新幹線開通による東北地方との新たな連携を考慮に入れながら北海道全体へ波及効果が行き渡るような取り組みを行うよう提案しました。



道の回答

現在、交通事業者や観光関連団体など30数団体とカウントダウンプログラムに取り組んでおり、その中で駅名決定の会議や周辺整備の工事が進められている。札幌延伸を視野に入れ、道南部の地元自治体と3月中にアクションプランを設定する。東北との連携は、従来の「青函圏」に代わる、さらに大規模な「津軽海峡交流圏」を共通目標とし、互いの観光業と連携しながら一層新幹

線開通に向けて努力していく。

(5) 道特別職の退職手当 カット

北海道における特別職の退職手当は、道のひつ迫した財政状況を鑑み、平成18年から独自に10%削減されてきました。今回、一般職員の退職手当を15%削減することに合わせ、特別職の退職手当も15%の削減に変更されましたが、北海道の特別職の退職手当は元々全国でも高水準であること、従来の独自削減の意味がなくなることを踏まえ、道のトップである知事が強いリーダーシップを発揮し、これまでの10%削減に今回の15%削減を加え、25%削減することを提案しました。

道の回答

特別職はその職責を考えると一般の役員・職員との比較は困難であり、他の都府県の動向や財政状況を鑑みて決めることが適当である。現在は退職手当以外にも給料等を一部削減しているが、これからも道民の皆さんの理解が得られるように取り組んでいく。

活動報告

写真で見ると



新日鐵住金(株)大分製鉄所

1月下旬、産炭地域振興・エネルギー問題調査特別委員として北九州市・大分県を視察し、「次世代エネルギー・社会システム実証」の先進的な取り組みを有意義に勉強しました。これからの北海道のエネルギー政策に役立てていきます



定例道議会に向けた予算ヒアリング

出席するのは政策審議会メンバーだけ。民主党・道民連合の政策や質問を作る上で責任重大ですが、やり甲斐もあります



決意も新たに新年会

1月、ご支援いただいている各方面の団体から新年会に招かれ、新年の決意を述べさせていただきました

朝、出勤途中の皆様にご紹介し続けています。

- 月: JR・あいの里教育大学駅前
- 水: 地下鉄・麻生駅前
- 木: JR・新琴似駅前
- 金: 地下鉄・北24条駅周辺



この冬、実地の社会勉強を希望する北大生2人を受け入れました。朝の街頭宣伝も体験し、議員活動を肌で感じてもらえたと思います

エッセイ

親父(おやじ)

むかい昭彦の思う「コト」6

essay

先日の誕生日。午前8時前、携帯電話が鳴りました。

「向井 ○○」。

特別な用事が無い限り、滅多に電話をよこさない親父でした。

「元気にやっていたか? 今日、誕生日だもな。おめでとうー」といつになく明るい声。口べたは相変わらずです。

「ありがと。今ちょうど朝食勉強会だよ」

「議会で忙しいんだべ?」

「今は般質問だから、来週予算特別委員会に質問するよ」

「そっかあ、身体に気をつけてがんばってー」

「ありがと。親父もね」

誕生日に電話をよこすなんて、生まれて初めて。想像するに、いつも新聞を隅々まで読む親父は、般質問が始まっているにもかかわらず新聞に名前も出ないし、気になっていたのかもしれない。

結婚してすぐ、私が母のお腹に居る時にお爺ちゃんを亡くし、お婆ちゃんと共に4人の兄弟姉妹を育てるために大変苦労してきた親父。吾兵衛で喜怒哀楽が激しく、頑固で減茶苦茶しついても厭しくて…。そんな親父が、私は子どもの頃から恐くて大嫌いでした。

中学三年の時、親父が町議会議員に立候補しました。定員26人に対し32名が立候補。前評判では「絶対大丈夫」と言われていた親父。いざふたを開けてみると次点で落選してしまいました。

当時、同級生のお父さんたちも同時に4人立候補しており、落ちたのは親父だけ。開票の伝達も手伝い、学校では生徒会長もやっていた私はシヨックでした。選挙が終わりに支持者に挨拶回りをして、親戚の家で飲んだ帰りのこと。親父が初めて泣きました。それまで一度も親父の涙を見たことが無かった私

は、驚くと共に「親父にとってどんなに悔しかったのか」が初めて解りました。

それ以来、私は「町議なんかじゃ無い。俺は町長になる!!」と、決意を固めました。これが私が政治家を目指すきっかけです。

7日の午前中、議会開会前には店を手伝ってくれている母からも電話が掛かって来ました。

「朝、親父から電話があつたさ」と伝えると、「そっ、珍しいねえ! でも、なんだかんだ言つてパパが、番あんだのこと、心配してるからね」

「そっつなだね…」

父と子。どんな形であっても、親が子を思う気持ちには変わりはないのだと、私も子を持つ父親として思います。

私の若気の至りで、現役を引退させて10年以上、地元を離れ小樽で暮らす親父。好きだった酒も滅多に飲めず、食事制限と運動のための散歩で糖尿病と戦っています。私が学生時代とは見違えるように痩せました。

母も店の手伝いで共和に居ることが多く、不便をかけていると思いますが愚痴も言いません。それでも店のためだからと、自ら食事を作ったりして我慢をしてくれている親父に、今は心から感謝しています。そして、わがままで迷惑ばかり掛けてきた分、なるべく親父の喜ぶ姿を増やしていくように努力します。

70歳を過ぎてようやく丸くなった感じもしますが、町議選でも道議選でもやっぱり一番喜んでくれた親父。

最近涙を見せることも多くなり、シヤイで上手いことも言えないままの親父ですが、いつまでも元気で、私の政治家としての歩みを見守って欲しいと願っています。

(2013年3月10日(日)のブログより抜粋)